

矯正施設退所後の支援やプログラムにおける

余暇支援やスポーツを活用した余暇支援のニーズの実態調査

田上碧彩 （ 筑波大学 ）

1. 目的

本研究の目的は、矯正施設を退所した障がい者に対して主に運動・スポーツを活用した余暇支援を確立するため、全国の地域生活定着支援センターで現在行われている業務や支援に着目し、余暇支援のニーズやその実態を明らかにすることとした。

2. 研究方法

- 1) 対象：全国地域生活定着支援センター協議会に所属する地域生活定着支援センター（45カ所）
- 2) 調査方法：選択・自由記述式アンケート
- 3) 分析方法：単純集計による数値、および記述内容に基づいて分析
- 4) 調査項目：地域生活定着に有効な業務・支援内容、重視業務・支援について尋ねた。加えて、余暇活動の実態や、ニーズ余暇支援やスポーツを活用した支援に対する職員の考え等を尋ねた。

3. 結果と考察

1) 支援・業務の重視項目

地域生活定着支援センターでは、地域定着のために「人間関係の構築」、「自己管理能力の向上」などを重視していた。再犯防止推進白書（法務省,2023）によると、良好な人間関係の構築ができれば、犯罪や非行から距離を置くことができ、価値観や考え方を変化することができる」と述べている。矯正施設退所後、新しく良好な人間関係を構築することができれば、今後再犯する可能性はかなり減ると考えられる。したがって、今後、余暇活動の支援を行っていくには、活動を通して人間関係が構築することができるような内容が望ましいということが考えられる。

2) 余暇活動実施の実態

余暇活動やスポーツを活用した支援実施の実態

については、地域によってさまざまであることが明らかになった。しかし余暇活動のニーズがあることやセンターの職員が余暇活動を通して、さまざまな効果を期待していた。スポーツだけでなく、アート・ボランティアなど幅広く行い、多くのニーズに合う形が求められていた。

しかし、余暇支援の障壁には、参加するハードルの高さや活動場所がないこと、障害特性に応じたスポーツが分からないことなどの課題が寄せられていた。今後これらの課題を検討しつつ、矯正施設を退所した障がい者に対するスポーツ活動プログラムを開発していく必要があると考えた。

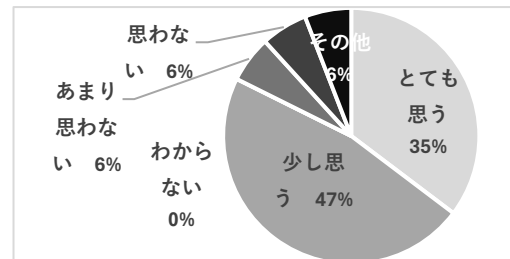


図1「楽しい」スポーツ活動を行うことについて

4. 結論

本研究では、余暇活動のニーズがあることやセンターの職員が余暇活動を通して、さまざまな効果を期待していることが明らかになった。スポーツが生きがいやQOLの向上、居場所の1つになり得ることなど、スポーツを活用した支援は退所者に良い影響をもたらし、地域定着や再犯防止に繋がると考えられた。

5. 主な参考文献

- 1) 法務省（2023）：再犯防止推進白書
- 2) 重藤誠市郎・吉岡尚美・内田匡輔（2016）：発達障害者対象のスポーツプログラムにおける居場所の心理的機能アダプテッド体育・スポーツ学研究, 2, (1), 10-13.